

プログラム名

東京慈恵会医科大学外科専門修得コース

募集定員

33名

研修期間

3年

プログラムの特徴

本プログラムは、東京慈恵会医科大学附属病院を基幹施設として、心臓外科、血管外科、肝胆膵外科、消化管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科の各分野に指導医・専門医を有し、附属4病院、国・公立病院、社会保険病院、私立病院など多彩な連携施設にて、最先端医療、common disease、地域医療をもカバーしている。また、上記7診療部を満遍なく経験でき、すべての2階建て部分と連続・連携している。本プログラム修了者は、優先的に入局資格が得られ、入局後は大学院進学・留学も可能である。慈恵医大外科は大講座制をとっているため、多くの仲間と切磋琢磨できる環境にある。専攻医が将来志向する各 subspecialty 領域については、171名の指導医のサポートのもと、より深い研修を受けることができる。

各疾患班別 subspecialty 領域について

- ・心臓外科: 新生児、未熟児を含む小児から成人、高齢者までの広範囲の心臓血管疾患を対象に、循環器内科、小児科など他の診療科と密接な連携のもと、診断及び治療を行っている。そのため、先天性心奇形から後天性弁膜症、冠動脈疾患、大動脈疾患まで様々な疾患を経験することが可能である。
- ・血管外科: 本邦で有数の症例数を誇り、心臓と脳血管を除く、頸動脈から下腿動脈まで広範囲を対象とし、外科手術、ステント術を含め慈恵医大オンリーの最先端手術を多数施行している。全ての外科レジデントが外科専門医に必要な心臓・大血管10例、末梢血管10例を経験できるようプログラムを作成している。

- ・肝胆膵外科:肝胆膵脾の良性・悪性疾患の診療を行い、肝胆膵外科手術(生体肝移植を含む)の適応、周術期管理を学ぶとともに、消化器外科専門医、肝胆膵外科高度技術専門医、内視鏡外科技術認定医などの取得を目指す。
- ・消化管外科:上部下部消化管病とも各種癌取扱い規約、治療ガイドラインに則した適応を遵守しながら手術に取り組んでおり、腹腔鏡手術も積極的に行っている。また、外科学会専門医、消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医などの取得を目指し、各施設においてレジデントにも積極的に術者を行わせている。
- ・呼吸器外科:気管支鏡や超音波気管支鏡検査を用いた診断及び治療を行っているので、同技術を習得できる。手術に関しては積極的に胸腔鏡で行っており、さらに新たな手術の研究開発に取り組み、腫瘍学的な基礎知識を併せ持つ癌治療のエキスペートとしての呼吸器外科医の育成を目指している。
- ・小児外科:専門習得コース 1,2 年目で成人の鼠径ヘルニア・虫垂炎の術者を経験した後に、3年目で小児外科疾患の多い施設で研修し、鼠径ヘルニア・停留精巣などの術者を行わせる。また、小児での超音波検査・造影検査などの技術を習得する。
- ・乳腺内分泌外科:乳癌・甲状腺疾患の診断及び治療を自ら担当し、ほぼ全例の手術に参加可能である。マンモグラフィー読影認定医取得を目指すとともに、超音波検査技術の習得および補助療法または再発治療としての化学療法を学ぶことができる。

【基幹施設】 東京慈恵会医科大学附属病院

【連携施設】 葛飾医療センター(分院・葛飾区)、第三病院(分院・狛江市)、柏病院(分院・千葉県)、富士私立中央病院(静岡県)、町田市民病院(町田市)、厚木市立病院(神奈川県)、川口市立医療センター(埼玉県)、独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院(埼玉県)、新百合ヶ丘総合病院(神奈川県)、総合東京病院(中野区)、埼玉県立小児医療センター(埼玉県)、AOI 国際病院(神奈川県)、佐久総合病院佐久医療センター(長野県)、心臓血管研究所附属病院(港区)、榊原記念病院(港区)、国立がん研究センター中央病院(中央区)等

※公開されている情報は一次審査を通過した時点のものであり、二次審査の結果を踏まえて修正・変更が生じる場合がありますのでご注意ください。